

第6学年 国語科学習指導案

日時 令和4年2月9日(水)5校時

対象 第6学年1組 22名

2組 22名

授業者 1組 森谷 愛

2組 落合 ひかる

研究主題

主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通じた授業改善を目指して～

高学年分科会の目指す児童像

「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

- 1 単元名 「これから社会を生きてくうえで大切なことを考え、おうちの人に伝えよう」
 教材名 「メディアと人間社会」(光村図書 第6学年) 筆者 池上 彰
 「大切な人と深くつながるために」(光村図書 第6学年) 筆者 鴻上 尚史

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。 【知－(1)カ】
- ・ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 【思C－(1)ア】
- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。【思C－(1)オ】
- ・ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 【思C－(1)カ】
- ・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすることができる。 【主】

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 【知－(1)カ】	① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【思C－(1)ア】 ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【思C－(1)オ】 ③ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【思C－(1)カ】	① 進んで既習事項を活用しながら文章の要旨を捉え、学習の見通しをもって、自分の考えをまとめようとしている。

3 本単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語編 第5学年及び第6学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

[知識及び技能]

(1) カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類と特徴について理解すること。

[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと

(1) オ 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の2つである。

- ① 文章の要旨を正確に把握し、捉えた要旨を基に自分の考えをまとめる力
- ② 意見や感想を共有する中で、他者がどのような言葉に対してどのように考えているかを理解し自分の考えを広げる力

上記の力を身に付けるために、本単元では、「これから社会を生きてくうえで、大切なことを考えよう」という学習課題を立てた。今年度は、高学年の目指す児童像を達成するために、児童に文章から自分の考えをもたせ、さまざまな考えを共有することで考えを広げていくことに重点を置いて指導している。

これまでの説明的文章では、論の展開や表現の工夫などを視点に、筆者の考えを読み取る活動をしてきた。本単元では、それらの既習事項を活用し、二人の筆者が述べる、違うテーマについての考えを読み取りながら、相違点や共通部分などに着目させて学習を進めていく。その中で、それぞれの筆者が主張する大切なことやその根拠を捉え、今の自分と比べたり、現代の社会をイメージしたりしながら生きていくうえで大事なものを考えていく機会にしていく。子どもたちはこれから中学校に進学し、多様な価値観の人と出会う。そんな中で多くの考え方を理解し、自分の人生に生かしていこうとすることは大切なことである。本単元では、一つ一つの、言葉をしっかり吟味することで、筆者の考えの本質（言葉の奥に隠された本当に伝えたいこと）を捉えられるようにしていきたい。児童それぞれが感じたことを共有しながら、自分が大切にしたいものについて考えることに重点をおいて指導する。

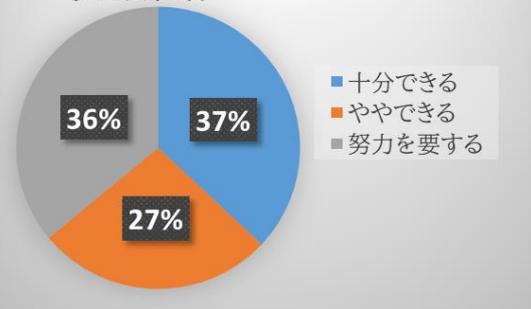
(2) 児童観



小学校最終学年、最後の説明的文章単元である。本単元につながる6年2学期までの既習事項の定着の実態を知るための調査（対象者：42名）を行った。

本単元で身に付けさせたい力である「文章の要旨を正確に把握し、捉えた要旨を基に自分の考えをまとめる力」は、左記の結果から分かるように、8割程度の児童が身に付けていると言える。本単元では、筆者の違う2つの文章について自分の考えをまとめるために、1つずつの文章ごとに「筆者の主張」と「段落ごとの要点」を全体で確認することで、正確に要旨を把握できるようにする。また、自分の考えをもてない児童に対しては、考えをもつことにつながりそうなヒントカードや問いかけを用意し、自力で考えをまとめられるようにしていく。

②意見や感想を共有する中で、他者がどのような言葉に対して、どのような考えを理解し自分の考えを広げる力



また、「意見や感想を共有する中で、他者がどのような言葉に対してどのように考えているかを理解し自分の考えを広げる力」の定着度は、左記の通りである。考えをまとめることはできても、筆者の考えをとらえたことを生かして考えを広げたり、他者の意見と比べて考えを深めたりすることに対しては、十分できる児童は4割未満であり苦手な児童の割合が増える。他者の考えや意見を聞くことに対して必要感もてるような単元はもちろん、その時間ごとのめあて、発問、問いかけを工夫して、児童が友達の意見を取り入れることよさや自分の異なる意見を聞くことの楽しさを感じさせていく。

(3) 教材観

「メディアと人間社会」

本教材は、人間のもつ欲求とメディアの発達との関わりについて、筆者の考えが述べられた文章であり、双括型で筆者の論が展開されている。第2段落～第5段落には、筆者の考えを説明する根拠となる4つの事例が、時系列（文字→電波→テレビ→インターネット）で段落ごとに述べられていて、説明的文章としては、「主張と事例」の関係性が見付けやすい教材であるといえる。第1段落と最終段落には「社会」、「情報」、「欲求」、「メディア」という語句が多く用いられ、筆者の考えを捉えるキーワードが分かりやすい。メディアがどのような欲求とともに発展してきたのか、どのように社会に影響を与えてきたのかを、時代の流れとともにイメージさせながら読み進めていく。また、「メディア」と「人間」という一見児童自身には切実感のない広い関係性について述べられているが、「私たち人間は、一人では生きられません。」という表現を冒頭に用いることで、読み手に強いインパクトを与え、惹きつける工夫もされている。これからの時代を担う存在としての自覚をもたせ、メディアとの関わりを含む自分の生き方について考えさせたい。

「大切な人と深くつながるために」

本教材は、具体例を示したり、問いかけたりしながら、コミュニケーションについて筆者の考えを繰り返し説明する形式で、筆者の論が展開される。第1段落と第2段落では、コミュニケーションの概念や「コミュニケーションが得意」とはどういうことかについての筆者の考えが述べられる。第3段落では具体例が挙げられ、第4段落では、コミュニケーションの上達によって「大切な人とつながることができる」という筆者の考えが示されている。第6段落では最近の社会におけるコミュニケーションの問題、最終段落は筆者の願い、主張という形で締めくくられる。

全文を通して「あなた」と読者に語りかけ、会話をするような文体で綴られていて、筆者と読者との距離を縮める効果が生まれている。さらに、具体例も遊びの相談やスポーツの練習など身近なものになっているのも児童にとって分かりやすい。

(4) 学習材の分析

<メディアと人間社会／池上彰>双括型

終わり	中				初め	構成
⑥	⑤	④	③	②	①	段落
筆者の主張	事例4 インターネットの発明	事例3 テレビ放送の開始	事例2 電波を使った通信の発明	事例1 文字の誕生	話題提示 筆者の主張	段落の役割
メディアは人間の欲求と関わりながら進化してきた。人間がどんな欲求をもっているか、メディアにどんなことが求められているかを意識し、メディアと付き合い合っていくことが重要である。	「情報を広く発信したい」という思い。インターネットの発明。誤った情報や嘘や情報で社会が混乱することも起こる。	「情報がありありと伝えたい」という思い。テレビ放送の開始。社会に対する影響力もさらに大きく。	「情報を早く伝えたい」という思い。電波を使った通信の発明。社会を混乱させるほどの影響力。	「情報を早く伝えたい」という思い。文字が誕生。時間や空間をこえて、情報を伝えられる。時間はかかる。	人間の「欲求」が、メディアを発展させ、高度な情報化社会を作ってきた。	段落の主な内容
↓主張、呼びかけ 「と」いう人間の欲求 ↓「はじめ」「中」との関係 今後「と」過去から未来へ 続く時間の流れ しかし、「と」でしようか。	「インターネット」 そして、「と」時の流れ ↓「と」思つて↓欲求 ↓「と」です。↓断定、影響 しかし、「と」 ↓前文との逆説的な影響	「映像」「テレビ」 やがて↓時の流れ ↓「と」いう人々の思い↓欲求 ラジオ以上に、「と」 影響力も↓過去との比較	「電波」「ラジオ」 ↓「と」いう思い↓欲求 一九三八年↓歴史的事実 ↓を示す事例 ↓影響とそれを支える事例	「文字」 ↓「と」思つて↓欲求 ↓「と」できるようになった しかし、「と」 ↓次の発明につながる	「社会」「情報」 「メディア」「欲求」 ↓「と」です。 ↓文末表現、断定	着目させたい言葉、文

<教材文の要旨例>

人間の欲求がメディアを発達させ、高度な情報化社会を作ってきた。人間がどんな欲求をもっているかを意識してメディアと付き合い合っていくことが大事だ。(70字)

<大切な人と深くつながるために／鴻上尚史> 尾括型

終わり	中②		中①		初め		構成
⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	段落
習 「コミュニケーションの練習」	最近のコミュニケーションにおける課題	「コミュニケーションが得意」になるためには	大切な人と深くつながる	「コミュニケーションが得意」とは②	「コミュニケーションが得意」とは①	話題提示	主な内容
「コミュニケーションの練習」をやればやるだけ上達し、あなたは大切な人と深くつながっていく。	大人たちは、メールやゲームをしたり、ウェブサイトを閲覧する時間が増えて、どんどん人間との直接のコミュニケーションが苦手になっている。	相手とぶつかり、むつとしたり、苦手だなあと思ったりしても、いろんな相手というんな場所でも何度もコミュニケーションしていくうちに、話し方や断り方、アドバイスができた、要求のしかたが得意になっていく。	コミュニケーションの技術が上達すればするほど、あなたは大切な人と深くつながることができる。	おたがいが少し不満だけど、とりあえずやっていける解決を見いだせるのが、「コミュニケーションが得意」ということなのだ。	「コミュニケーションが得意」とは、相手ともめてしまったとき、なんとかやっていける能力があるということだ。	自分の思いや考えを伝え、誰かとぶつかることは悪いことではない。	段落の内容
あなたはどうか。↓ ↓論の特徴、呼びかけ それが、↓です。筆者の考え そうして、↓のです。↓筆者の主張	昔は、でも、最近は、 ↓過去と現在の比較、課題	では、↓でしょう。↓問い ↓しますね。↓論の特徴 相手とぶつかり↓のです。 ↓断定、七段落との関係	↓思うでしょう。↓論の特徴、予想 の問いかけ ↓コミュニケーションの↓のです。 ↓断定、七段落との関係	例えば、↓と言う。↓身近な例 そういうとき、↓のです。 ↓定義の説明	さて、↓ですか。↓呼びかけ でも、↓ことです。↓筆者の定義	あなたが↓身近な例 「コミュニケーション」	着目させたい言葉・文

<教材文の要旨例>

コミュニケーションは、他者とぶつかったときでもなんとかやっていくためにすること。練習を繰り返してその技術が上達することで、大切な人と深くかかわることができる。(79字)

4 研究主題に迫るための手立て

○ 実生活につながる単元課題の設定

本単元では、「これから生きていくうえで大切なことを考えよう」という単元課題を設定した。この学習は、小学校最後の説明的文章として、様々な文章や人の考えに触れ、それぞれが主張すること(要旨)を的確に捉え自分の考えを深めることで、今後の生き方に取り入れていくことを目指す。昨年度から学校に iPad が導入され、児童らにとってメディアがより身近になった。スマートフォンをもつ児童が増え、SNSを通して人とコミュニケーションをとる機会も多くなってきている。そのような社会で生活していく児童にとって、「うまくメディアや人と付き合っていくためにはどうすればいいのか」という必要感のもと、学習に取り組ませたい。

○ 振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「疑問点」「次の時間にすること・したいこと」などの観点を挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。また、児童が自分の学びを進めようとしている記録や自分の言葉で表現しようとする姿に教師のコメント等で価値付けしたり、児童の振り返りを全体の前で取り上げたりすることで学習の積み重ねを児童が実感できるようになると考える。また、学習を児童自身が進められるようにするため、児童の学習状況について、指導・助言を繰り返し、成功体験を味わわせたい。

○ 対話活動の充実

(1) 「4つの対話」による意図的な対話活動

「4つの対話(「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話)」を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり教師と児童で考えたりする。目的や視点を明確にすることで、振り返ったときに、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていきたい。

(2) 学習形態の工夫

教師が意図的にグループ編成や学習形態を設定し、学習を行っていく。グループ編成においては、習熟度を考慮し、学び合いができるように編成していく。また、学習形態では、ペア、グループ、学級全体等が考えられる。また、ICT 機器やシンキングツール等の対話の手段も児童自身が選択できるようにしていきたい。

○ 既習事項を生かせるようにする工夫

小学校最後の説明的文章の学習である。文章の要旨を適切に読み取ることができるように、「文章構成」や「主張と事例」、「要点」など要旨を捉えるために重要となる既習事項を掲示し、活動前に全体で共有、確認する。児童の習熟度によって、レベル別にワークシートを用意し読解力や表現力に応じて自力で読み取ったり、考えをまとめたりできるようにしたい。

○ 語彙を豊かにするための工夫

日常活動において、語彙を獲得する際に、量を獲得するだけでなく、派生語や類義語、対義語など、言葉を分類するなどして獲得できるようにしていきたい。そうすることで、文章中の言葉一つ一つをより吟味して読み取ったり、自分の考えを表現しやすくなったりすることにつなげたい。

5 単元計画と評価計画（全6時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
短時間学習			1 「メディア」や「人間社会」について、知っていることや感じることを話し合う。 2 「メディアと人間社会」の範読を聞き、初発の感想をもつ。	・初発の感想の視点 「分かったこと」「考えたこと」 ☆読み取りが十分でない児童には、主張やキーワードが示されている文章を用意する。
短時間学習			1 友達とより仲良くなるためにはどうしたらよいか話し合う。 2 「大切な人と深くつながるために」の範読を聞き、初発の感想をもつ。	・初発の感想の視点 「分かったこと」「考えたこと」 ☆読み取りが十分でない児童には、主張やキーワードが示されている文章を用意する。
1	1	学習課題を把握し、見通しをもちながら、学習計画を立てることができる。	1 説明的文章の既習事項を確認する。 2 学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題を確認し、学習計画を立てよう。</div>	・押さえない用語 「筆者の主張」「要旨」 「具体例」「文章構成」 「キーワード」
			3 単元の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">これから社会を生きてくうえで大切なことを考え、おうちの人に伝えよう。</div>	
			4 学習計画を立てる。 5 本時の学習の振り返りをする。	・総合的な学習の時間での学習との繋がり、卒業式に向けての繋がりも意識させていく。
2 3		「メディアと人間社会」、「大切な人と深くつながるために」の文章の構成や要点を押さえ、要旨をとらえることができる。	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文章の要旨をとらえよう。</div>	◆イ-① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【デジタル教科書、「スクールタクト」の記述
			3 筆者の主張を見付け、それぞれの段落の要点を押さえる 4 学級全体で交流する。 5 全体で押さえた要点と主張を基に、文章の要旨をまとめる。	

			6本時の振り返りをする。	の分析】
2	4 本時 (2組)	「メディアと人間社会」と「大切な人と深くつながるために」の筆者の考えや文章構成、表現方法などを適切に比較することができる。	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">二つの文章の特徴を見つけて、比べよう。</div> 3 読み取る視点を基に、二つの文章の読み比べ、違いを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">☆表現方法 ☆論の展開 ☆考え方 等</div> 4 グループで交流し、違いと根拠をまとめる。 5 学級全体で交流する。 6 本時の振り返りをする。	◆ア-① 文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 【「スクールタクト」の記述の分析、話し合い】
	5 本時 (1組)	「メディアと人間社会」と「大切な人と深くつながるために」の筆者の考えや文章構成、表現方法などを適切に比較することができる。	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">二人の考えには、どのような共通点があるのだろう。</div> 3 二つの文章の記述で似た意味の言葉を基に読み比べ、共通した考え方があるのかを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">☆似た意味のキーワード 情報伝達—コミュニケーション メディア—インターネット 生きている—人生を生きる 等</div> 4 グループで交流し、意見と根拠をまとめる。 5 学級全体で交流する。 6 本時の振り返りをする。	◆ア-① 文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 【「スクールタクト」の記述の分析、話し合い】
3	6	筆者の考えや友達の考えを基に自分の考えをまとめることができる。	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">筆者の考えや友達の考えを聞き、自分のこれか らについて考えよう。</div> 3 これまでの学習を振り返る。 4 自分がこれから大事にしたいことについて、自分の考えをまとめる。 5 スクールタクトで共有して、感想を伝え合う。 6 本時の振り返りをする。	◆ウ-① 進んで既習事項を活用しながら文章の要旨を捉え、学習の見通しをもって、自分の考えをまとめようとしている。 【「スクールタクト」の記述の分析】

6 本時の展開

[2組(4/6)]

(1) ねらい

「メディアと人間社会」と「大切な人と深くつながるために」の筆者の考えや文章構成、表現方法などを適切に比較することができる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価基準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。		
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">2つの文章の特徴を見つけて比べよう。</div> 3 読み取る視点を基に、2つの文章の特徴を読み取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ☆表現方法 ☆論の展開 ☆考え方 等 </div> 4 グループで共有し、意見と根拠をまとめる。 5 学級全体で交流する。 T それぞれの文章にどんな特徴がありましたか。 C 「メディアと人間社会」は、双括型。中の段落はそれぞれ「文字」「ラジオ」「テレビ」「インターネット」と時代の流れに沿って書かれていて分かりやすい。 C 中の段落は、どの段落も同じように「思い」と「実現したこと」、そして「実現したことによって起こったこと」が書かれていて、次につながるようになっている。 C 「大切な人と深くつながるために」は、「あなたは～ですか。」など、自分に言われているように感じる表現が多く、親近感を感じやすい。 C 身近な例を挙げながら、それに対する筆者の考えを述べている。 C 「メディアと人間社会」は、メディアがなぜ変化してきたのか、どう変化してきたのかを述べることによって、これから未来を生きる自分たちにメディアとの付き合い方の大切さを訴えている。 C 「大切な人と深くつながるために」では、みんなが当たり前前に経験しネガティブに考えてしまうことに対して、筆者なりの考えを述べることによって、今の目の前の人との過ごし方の大切さを訴えている。	・それぞれの文章の論の展開や、表現に気を付けて、考えや述べ方の相違点を見つける。 ◎文章構成や、文末表現など文や言葉に着目して、特徴の根拠を述べている。	・「表現方法」「論の展開」などの言葉について全体で確認する。 ・「表現方法」「論の展開」などの言葉について、色ごとに線を引かせながら、視覚的に特徴を分かりやすくする。 ☆読み取りが十分でない児童には、主張や語尾、接続詞など特徴的な表現を色別に線を引いたヒントカードを渡す。 ◆ア-① 文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の種類とその特徴について理解している。【「スクールタクト」の記述分析、話し合い】

まとめ	<p>6 本時の振り返りをする。</p> <p>T この2つの文章は全く異なる文章なのでしょうか。</p> <p>C 共通している部分もあるかもしれない。</p>	<p>・振り返りでは以下の視点を示す。</p> <p>「分かったこと」「疑問点」「次の時間に行うこと・したいこと」</p> <p>・次時への見通しをもたせる。</p>
-----	---	---

(3) 授業観察の視点

・2つの文章の特徴を、叙述をもとに比較しながら見つけようとしているか。

(4) 板書計画

スクリーン

考え方	論の展開	表現の特徴	
人間の欲求を意識してメディアとの付き合い方が大切	中(文字↓電波↓映像↓インターネット)時代の流れ 総括型	かたい感じ。 書き言葉。	メディアと人間社会
コミュニケーションの練習をしながら、人とつながっていくことが大切	事例↓筆者の考え 繰り返している 主張を少しずつ話している ↓大きな主張。尾括型。	やわらかい印象 話し言葉。語りかけている。 あなたはどうですか。 問いかけ 身近な例	大切な人と深くつながるために

☆表現の特徴

☆論の展開

☆考え方

文末
よく用いる言葉

文章の順序・流れ

主張や例の位置

筆者は何が大切だと主張しているか

めあて

二つの文章の特徴を見つけて、比べよう。

メディアと人間社会 池上彰

大切な人と深くつながるために 鴻上尚史

掲示

(全文表示)

メディアと人間社会

池上 彰

(全文表示)

大切な人と

深くつながるために

鴻上 尚史

[1組(5/6)]

(1) ねらい

「メディアと人間社会」と「大切な人と深くつながるために」について、両者の考えの共通点を捉えることができる。

(2) 本時の展開

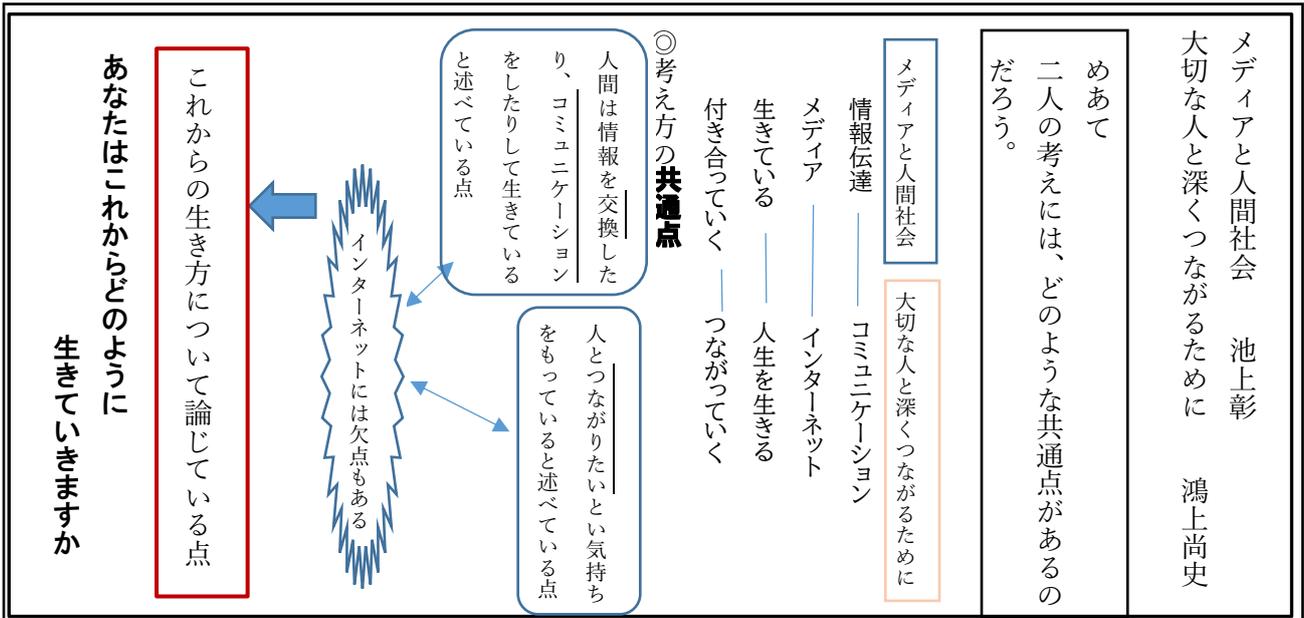
時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点										
導入	1 前時の振り返りを共有する。 2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 二人の考えには、どのような共通点があるのだろう。 </div>		☆前時で学習した相違点を提示し、振り返りやすくする。										
展開	3 二つの文章から似ている意味の言葉を見付け出す。 T 二つの文章に似た意味の言葉は、あるでしょうか。 <table border="1" data-bbox="242 857 740 1151" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">◆メディアと人間社会</td> <td style="text-align: center;">◆大切な人と深くつながるために</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">情報伝達</td> <td style="text-align: center;">コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">メディア</td> <td style="text-align: center;">インターネット</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">生きている</td> <td style="text-align: center;">人生を生きる</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">付き合っていく</td> <td style="text-align: center;">つながっていく</td> </tr> </table> C 相違点ばかりだと思っていたけれど、似たことを主張しているのかもしれない。 4 二つの文章の考えの共通点について考える。 5 グループで共有し、意見と根拠をまとめる。 6 学級全体で交流する。 T 二人の主張にはどのような共通点があるのでしょうか。 C これからの生き方について論じている点。 C インターネットには欠点がある点。 C 人間は情報を交換したり、コミュニケーションをしたりして生きている点 C 人とつながりたいという気持ちをもっていると述べている点	◆メディアと人間社会	◆大切な人と深くつながるために	情報伝達	コミュニケーション	メディア	インターネット	生きている	人生を生きる	付き合っていく	つながっていく	・それぞれの文章の論の展開や表現に気を付けて、考え方の共通点を見つける。 ◎文章校正や文末など文や言葉に着目して、特徴の根拠を述べている。	・二つの文章を上下に並べた全文プリントを活用する。 ☆一方のキーワードを提示して、もう一方から見つけ出せるようにする。 ☆似た意味の言葉に同じ印を付け、二つの文章を対応させて考えられるようにする。 ☆読み取りが十分でない児童には、共通点を含む文のみで比較できるヒントカードを渡す。 ・早く解決できたグループは、資料「プログラミングで未来を創る」との共通点について話し合うようにする。 ◆ア-① 二人の考えの共通点を叙述を基に見つけ出し、両者ともこれからの社会での生き方について論じていることを把握している。【「スクールタクト」の記述分析、話し合い】
◆メディアと人間社会	◆大切な人と深くつながるために												
情報伝達	コミュニケーション												
メディア	インターネット												
生きている	人生を生きる												
付き合っていく	つながっていく												

まとめ	<p>7 本時の振り返りをする。</p> <p>T 二人の筆者の主張は、みなさんへのどんなメッセージなのでしょうか。</p> <p>C これからの生き方について考えてほしい。</p>	<p>・振り返りでは以下の視点を示す。</p> <p>「自分の考えとの共通点や相違点はあるか」</p>
-----	---	---

(3) 授業観察の視点

・キーワードをもとに両者の主張の共通点を見つけ出し、これからの社会での生き方について課題意識をもとうとしているか。

(4) 板書計画



掲示

(全文表示)

メディアと人間社会
池上 彰

(全文表示)

大切な人と
深くつながるために
鴻上 尚史